

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900083		
法人名	当利法人 有限会社 PPKちようしんき		
事業所名	ほほえみの郷 シェア甲子園		
所在地	西宮市甲子園浜田町4-9		
自己評価作成日	令和4年1月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和4年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境で、その方のペースに合わせ、ゆったりとにこやかに生活していただけるように、生活史・生活様式をスタッフが理解して、日々個別ケアに取り組んでいます。また、夜間以外は玄関を開放することで、自由な暮らしを支援するとともに、ご家族様が気軽に来ていただけるようにしています。理念をスタッフ内で共有し、ご利用者の言葉の真意をスタッフが代弁できるように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地にあり、地域交流・外出支援に積極的に取り組み、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。コロナ禍のため交流や外出が困難な状況であるが、状況を勘案しながら散歩や近隣への外出を継続し、事業所内での季節の行事、食事・おやつレクリエーションやデリバリー利用等、季節感や楽しみが感じられる機会作りに努めている。「私たちが大切にしているケア・コミュニケーションの方法」を共有し、「ライフスタイルプロフィール」等で生活歴を把握し、利用者を尊重しその人らしい生活が継続できるよう個別支援に取り組んでいる。運営母体が医療機関であり、主治医・看護師との医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。職員の定着がよく、利用者・家族と馴染みの関係づくりができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者の生活史を学び理解するように努める、尊厳ある”生”を心より支持しその実現に努める、地域の一員としての役割を果たせるように努める、医療と介護が連携し自立を支援する等の理念をスタッフルームに掲示し、また理念を踏まえてカンファレンスを実施し、ケアプランや日々のケアに取り組んでいる。	事業所独自の理念「私たちの理念」を作成し、「地域の一員としての役割を果たせるように努める」という地域密着型サービスの意義を盛り込んでいる。理念をもとに、職員の行動規範となる12項目の具体的な方法を「私たちが大切にしているケア・コミュニケーションの方法」として明示している。「私たちの理念」「私たちが大切にしているケア・コミュニケーションの方法」をスタッフルームに掲示し、入職時の研修と事業所内研修の中で研修し共有と理解を図っている。スタッフ会議やカンファレンスで検討する時等に立ち戻り、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに参加する、神社や施設周辺の清掃をすることで日常的に交流を深め、挨拶や世間話をできる関係にある。自治会に加入し、情報交換を行っている。	通常は、夏祭り・秋の運動会・餅つき大会・清掃活動・公民館活動等、自治会や地域の行事に参加し交流している。ミニコンサート・ちぎり絵等のボランティアの来訪もある。地域のコンビニエンスストア・ケーキ店・喫茶店等も活用している。コロナ禍のため上記の地域交流は休止しているが、状況を勘案しながら、散歩・初詣・花見等の地域近隣への外出、演芸や演奏のボランティアの来訪等、可能な範囲で利用者が地域とのつながりを継続できるよう取り組んでいる。自治会への加入、自治会長・民生委員の協力関係も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームについて地域の方からのご質問があれば、ご説明させていただいている。また、福祉事業所からの相談や見学等も受け付けている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。民生委員の方の橋渡しにより、地域の催しへの参加、グループホーム相互の情報提供、交流などサービスの向上に活かしている。避難訓練実施時に民生委員の参加により、アドバイスを頂いている。ご家族代表の視点からの意見を伺い、サービスの向上に繋げている。	利用者(2名)・家族代表・民生委員(地域住民代表)・権利擁護支援者(市が派遣)・知見者(他事業所管理者)を構成委員として、2ヶ月に1回開催している。会議では、近況レターを回覧しながら、利用者・職員の状況、行事等の事業所の取り組み、事故事例・対応等について報告し、参加者との意見・情報交換を行っている。議事録は全家族に郵送すると共に、玄関にファイルを設置して公開している。コロナ禍のため書面開催になった場合は、議事録を全家族を含め構成委員に郵送し報告している。議事録に「意見・要望・助言欄」を設け、返信内容を次回の会議(議事録)で共有し、書面開催でも意見・情報交換できるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、民生委員や地域包括支援センターの職員と意見を交換し、また必要に応じて連絡を取り合っている。運営推進会議議事録や被服費支給申請書等を、法人指導課や厚生課に提出する際に疑問点を伺っている。	運営推進会議について、市の権利擁護支援者の参加と、市への報告書の提出を通して市との連携がある。福祉的支援を要する利用者について、市の担当者と協働して支援している。質問や報告事項については、市の担当窓口へ質問・報告を行い適切な運営を行っている。ワクチン接種や物品支給等についても情報提供を受け、事業所の感染予防対策に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するスタッフの研修を行っている。夜間以外は玄関の施錠はしていない。身体拘束適正委員会を3カ月に1回開催し、ケアカンファレンス、身体拘束をせずに行うケア等議題を盛り込み職員同士の意見交換をおこなう。	「身体拘束等の適正化のための指針」を作成し、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、スピーチロックの防止や拘束をしない対応方法について具体的に検討している。議事録の回覧により周知を図り、サインで周知を確認している。年間研修計画に入れ、「高齢者虐待防止・身体拘束排除のための取り組み」について年2回研修を行っている。出席できなかった職員には、資料を回覧し周知を図り、サインで周知を確認している。玄関・各フロアの入り口は日中は施錠せず、階段・エレベーターは自由に使用でき、閉塞感のない暮らしを支援している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するスタッフ研修を行っている。事故が起こった場合、事故対策委員会で事故についての検証と再発防止策を話し合い、報告書にまとめて、スタッフで共有するように努めている。	高齢者虐待防止についても、上記身体拘束排除と同様に研修を実施している。事故対策委員会・身体拘束適正化委員会での検討も、不適切ケアの防止につなげている。相談しやすい職場環境づくり、職員の希望や勤務配置等に配慮したシフト調整、有給休暇の取得促進等、職員のストレスや不安等がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関するスタッフ研修を行っている。成年後見制度を利用されているご利用者がいらっしゃり、実践的に制度を理解している。	成年後見制度についても、年間研修計画に入れ研修を実施している。研修では利用者の事例を通して説明する等、理解しやすく支援につなげやすよう工夫している。現在、制度を活用している利用者が2名あり、後見人・保佐人への対応を通して制度利用を支援している。管理者が市や関係者と連携して制度利用の申請を支援した事例もある。今後も、制度活用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり支援する体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、質疑応答の時間も設け、理解・納得を図っている。	入居希望者には、自宅訪問時や見学時にパンフレット・料金表を用いて説明している。介護度などに応じたシュミレーションを提示し、料金が具体的に把握できるよう工夫している。契約時には、契約書・重要事項説明書・同意書・指針等を説明し、文書で同意を得ている。自由な暮らしとリスク・入院時の対応・看取り対応等については特に詳細に説明し、理解と納得を図っている。契約内容を改定する際は、変更内容を説明した文書を郵送し、文書で同意を得ている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族の意見や要望をスタッフ間の申し送りで周知し、また家族会や運営推進会議で議題として取り上げ、運営に反映するように努力している。	月1回以上は家族が来訪する機会作りを行い、近況レターを毎月、運営推進会議の議事録を2ヶ月に1回郵送し、コロナ禍以降はテレビ電話の機会も設け、家族に利用者の近況や事業所の取り組みを伝え、意見・要望を表しやすいように努めている。全体の近況レターでは、写真を多数掲載して行事や生活の様子を紹介し、個別の近況レターでは、利用者個々の様子・体調・連絡事項を利用者担当職員が記載して伝えている。通常は、家族の面会時や食事を兼ねた家族会でも、意見・要望の把握に努めている。運営推進会議に利用者・家族の参加があり、外部者に意見を表す機会を設けている。(コロナ禍では利用者の参加は休止)	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議での話し合いや日々気付いたことの報告等により、素早く意見が反映されている。代表者に随時連絡での対応を行っている。	毎月、各フロアでスタッフ会議を開催し、フロア内の業務や利用者個々の状況やケアについて、情報共有と検討を行っている。出席できなかった職員も、議事録の回覧により共有している。日々の共有事項や検討事項は、申し送りや連絡ノートで共有・検討している。管理者は、定期的には月1回、日常的には随時、職員の意見等を個別に聴く機会を設けている。内容に応じて、法人代表者にも職員の意見等を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが代表者に気軽に相談できる環境を作っている。又、一人一人の特色を見極め整備に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ間で研修を行っている。外部研修に参加できるように、情報提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や外部研修で知り合った同業者の方と情報交換等を行っている。グループホーム連絡会に参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームの見学やご自宅の訪問をさせていただき、ご本人のお話をお聞きして、要望を叶えられるように努めている。場合によっては、体験入居していただくこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・面接の段階で積極的にお話をお聞きし、場合によっては他の施設等を紹介し、納得した上で入居していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族の要望、気持ちを深く聴き取り、必要な時に必要な支援を適切に提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を踏まえ、「介護されている」という気持ちを持たれないような対応を心がけ、できるだけ質問形式で自己決定を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	計画作成担当者・居室担当者を中心に、積極的にご家族とお話しするように心がけ、ご家族からの意見を聞かせていただき、ケアに反映している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が大切にしてきた馴染みの場所を訪ねたり、生活史を大切にしている。ご家族の来訪時に、少しでも多くご利用者と今の時間を共有していただけるように配慮している。	馴染みの人や場所についての情報は、入居時は「ライフスタイルプロフィール」(家族記入)等で把握に努めている。入居後に把握した情報は、ケース記録やスタッフ会議等で共有している。通常は、家族・知人・友人の面会があり、また、自宅や友人宅等に外出支援を行う等、馴染みの関係継続に取り組んでいる。デイサービスの活動に参加し、馴染みの関係を継続する機会もある。コロナ禍のため、面会や交流を休止しているが、テレビ電話や状況を勘案しながらの個別外出等により、可能な方法で馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、ご利用者同士がコミュニケーションをとりやすいように努めている。他利用者とのコミュニケーションが取りにくい方は、ご利用者と共にスタッフが声をかけて、寂しい思いをされることがないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された場合はお見舞いに伺い、ご家族からの相談があれば、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションから入手した情報やご本人の生活を観察し、その方の言葉を深く受け止め、思いや意向を把握し、アセスメントを行い、ケアプランに反映し、ケアに繋げている。	利用者個々の思いや暮らし方の希望等について、入居時は「ライフスタイルプロフィール」(家族記入)等から把握に努めている。入居後に把握した内容は、ケース記録やスタッフ会議等で共有すると共に、計画作成責任者に報告して「アセスメントシート」に記録し、ケアや介護計画に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、利用者の生活や表情・反応の観察から汲み取ったり、家族からの情報や意見を参考に把握に努めている。	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に書いていただいた生活史や、ご本人とのコミュニケーションで得た情報を、スタッフ間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、気付いたことを申し送り、スタッフ間で共有し、日々の変化に対応できるように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前にサービス担当者会議を行い、ご本人やご家族の意見をお聞きし、ケアに反映するようにしている。毎月モニタリングを行っている。	「ライフスタイルプロフィール」「アセスメントシート」等をもとに介護計画を策定している。サービスの実施状況を、ケース記録「私の日々の暮らし」、各種チェック表に記録している。ケース記録の「サービスの実施状況」欄に介護計画の内容を記載し、職員に介護計画の内容の周知を図ると共に、実施状況を明確に記録できるよう工夫している。毎月のスタッフ会議で、利用者個々の状況やケアについて共有や検討を行っている。「モニタリングシート」によるモニタリングを毎月実施し、定期的には6カ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直しの際は、「アセスメントシート」による再アセスメントとモニタリングの結果をもとにサービス担当者会議を開催し、利用者・家族・計画作成責任者・利用者担当職員が参加し検討している。	介護計画の見直し時に、主治医・看護師など関係者の意見を聴いた場合は、サービス担当者会議の議事録に記録してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を記録し、気付いたことを申し送りや管理者に報告し、スタッフ会議で話し合い、計画作成者を中心に介護計画を見直し、ケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化により柔軟にレクや取り組みを行ったり、ご希望による外出に対応している。医療と連携して、通院介助や往診、訪問看護の連絡調整を行っている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、ボランティアに来ていただくことで、楽しみを持って生活していただけるように支援している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による往診と緊急時の指示を受け、他の医療機関とも連携し、適切な医療を受けられるように支援している。ご家族とご利用者のご希望により、眼科、歯科、皮膚科、整形外科の往診も受けている。	定期的には主治医(内科)の往診を週1回、訪問看護を週1回、必要に応じて、眼科・歯科・皮膚科・整形外科の往診を受けられる体制がある。通院が必要な場合は、主治医から情報提供し、主に職員が同行介助している。往診の記録は「往診表」に、訪問看護の記録は「訪看表」に、通院の記録はケース記録に記録し、申し送りノートにも記録し職員間で情報提供している。訪問看護師は利用者の健康管理を行い、異変があれば主治医に連絡し、医療連携体制を整備している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1回定期訪問し、スタッフと情報交換をしながら、個々のご利用者の体調管理をしている。また、かかりつけ医との連携をし、適切な医療の提供を支援している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者やご家族と速やかに情報の共有を行い、早期退院に向けて支援している。スタッフが出来る範囲で面会に伺い、コミュニケーションを図るように心がけている。	入院時は、介護サマリーで病院に情報提供を行っている。入院中は、職員が病院を訪問したり、電話で病院関係者と情報共有し、早期退院に向け支援している。退院前はカンファレンスがあれば参加し、または電話で情報交換している。退院時は看護サマリーで情報を得て、退院後の事業所での支援に活かしている。入院中や退院前の情報は、申し送りノートで随時職員に伝え共有している。	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医に状況を報告し、ご家族と話し合い、できる限り良好に支援できるようにスタッフ及び他職種間で方針を話し合っている。	契約時に、「重度化対応指針」を説明し医療連携について同意を得て、「緊急時の申し合わせ書」で緊急時対応について意向を確認している。重度化・終末期を迎えた段階で、主治医から家族に状態を説明し、事業所から「看取りの指針」を説明している。看取り介護の希望があれば、「緊急時の申し合わせ書」で再度意向を確認し、「看取りの介護計画」を作成して家族の同意を得ている。主治医・看護師と連携を密にとり、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。職員に対応方法や留意点を具体的に説明する文書を作成し、共通理解を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、スタッフ研修を行い、早期対応をできるように努めている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、スタッフ研修を行い、地域の消防署の指導の下、また、民生委員、自治会長の協力の下、訓練を実施している。平成25年4月より、津波避難訓練計画を作成し、防災訓練を年2回行っている。地域住民に避難訓練参加のお声掛けをしている。	毎年、火災時避難訓練を2回、津波時避難訓練を1回実施している。令和3年度は12月に夜間想定火災時避難訓練を利用者も参加して実施し、3月に津波時避難訓練を予定している。「非常災害時の対応について」の研修も実施している。通常は、訓練に民生委員や自治会長の参加を依頼し、地域との協力体制が築けるよう努めている。水・食品・備品等の備蓄品を各フロアで保管し、防火管理者が管理している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成し、具体的なコミュニケーション方法の事例を挙げ、研修を行い、実践している。個人の価値観、嗜好、習慣を最重要の視点とした、言葉かけや対応を行っている。	「私たちが大切にしているケア・コミュニケーションの方法」を「私たちの理念」と共にスタッフルームに掲示し、入職時研修と事業所内研修の中で研修し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について周知を図っている。年間の事業所内研修計画に、「個人情報・プライバシー」「倫理及び法令遵守」「認知症ケア」に関する研修も取り入れ、学ぶ機会を設けている。個人情報に関するファイルは、各フロアのスタッフルームの鍵付の書庫に保管されている。写真等の使用については、契約時に同意書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重する気持ちを持ってケアに取り組んでいる。できる限り自己決定をしていただけるように、開かれた質問をするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールで生活していただくのではなく、ご本人のペースで生活していただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容師に来ていただき、カットだけでなくパーマやカラーを楽しまれている。希望される方には、化粧やマニキュアを塗るなどして、女性としての楽しみを感じていただけるようにしている。個人の要望により地域の美容院を利用している。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配を利用しているが、月に数回ご利用者にチラシを見て頂き好きなものをデリバリー注文している。準備や配膳、片付けなど、できる方ができるペースでスタッフとともにやっている。また、ご利用者の希望がある場合は、ご利用者と買い物に行ったり、希望される食事、おやつと一緒に調理している。	朝食の調理と炊飯は各フロアで行い、業者から搬入した食事を温めて提供している。利用者個々に応じた食事形態にも対応している。可能な利用者は、日常的に盛り付けや後片付けに参加している。利用者の希望を聞いて月に数回デリバリーを利用し、変化を楽しむ機会を設けている。また、季節行事や季節感を取り入れて食事レクリエーションやおやつレクリエーションを行い、利用者も調理に参加できるよう企画している。食事レクリエーションやおやつレクリエーションの様子を近況レターで紹介し、家族にも伝えている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の咀嚼・嚥下力に合わせ、ご本人にとって苦ではない水分・食事摂取ができるように工夫し、摂取状況を記録し、把握している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には口腔ケアの声かけや介助を行っている。その方の状態に合わせた方法で口腔ケアを行っている。歯科が積極的に協力や指導をして下さっている。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排尿のペースを把握し、トイレ誘導を行っている。また、ご本人の状態に合わせ、スタッフ・ご家族と話し合い、オムツの使用を減らすようにしている。	必要に応じて個別に声かけや誘導を行い、排泄の自立度に応じて対応し、トイレでの排泄、排泄の自立の継続に向けた支援を行っている。利用者個々の排泄状況・排泄パターンは、排泄チェック表とケース記録「私の日々の暮らし」で把握している。利用者個々の状況の共有や、介助方法や排泄用品についての検討等をスタッフ会議で行い、現状に即した支援につなげている。ドアの開閉や自立支援等、介助時のプライバシーへの配慮について周知を図っている。	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の状態に合わせて主治医と連携し、下剤の調整を行っている。また、乳製品の摂取や散歩など、生活面からの支援も行っている。看護師指導のもと便秘予防の体操を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望やタイミングを逃さず、気持ちよく入浴していただけるように工夫している。	入浴表を作成し、3日に1回の入浴を基本とし、利用者の体調や希望に応じて柔軟に対応している。個浴の一般浴槽で、一人ずつ湯を入れ替え、職員と会話を楽しみながら自身のペースで入浴を楽しめるように支援している。身体状況に応じて、シャワー浴でも対応している。入浴拒否の事例はないが、希望があれば同性介助や日時の変更を行う等、個別の配慮で対応することとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく安眠できるように、可能な限りご自身のリズムで休んで頂けるように就寝前の状態や気分に応じて、ソファやベットで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者がどのような薬を服薬しているか、薬剤師の説明のもとスタッフ間で知識の共有をし、服薬確認を二人以上で確認、徹底している。また、日々の変化を主治医に連絡し、医療との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食材切り、塗り絵などの工作など、ご本人にあっただけの事を一緒にしていただいている。歌やゲーム、外出など個別にレクリエーションをしている。個人の要望により、新たな外出先にもチャレンジしている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて散歩やドライブをしており、定期的に外出の機会を作っている。	通常は、散歩や買い物等の日常的な外出、自治会や地域の行事への参加、外食・喫茶、季節の外出行事、遠足等、積極的に外出の機会を設けている。コロナ禍のため外出の機会は減っているが、状況を勘案しながら、日課としての散歩は可能な限り継続し、気分転換や身体機能の低下予防に努めている。時間帯と場所を考慮しながら、近隣で初詣・花見を楽しむ機会を設けている。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族の意向とご本人の希望に応じ、金銭管理が可能な方は管理していただいている。買い物等の付き添い援助も行っている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の意向も考慮しながら、ご利用者の希望に応じて、自由に電話を使えるように支援している。また個別に携帯電話を使用されている方もいらっしゃる。		
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の生活の場であると感じていただけるように環境設定をしている。季節を感じていただけるような飾りなどをして、居心地良く過ごしていただけるように工夫している。	共用空間は、移動の動線等を考慮してテーブル席・ソファの配置を工夫し、利用者が思い思いに過ごせるように配慮している。換気・消毒・掃除を定期的に行い、衛生管理を行っている。ステッカーや共同制作のちぎり絵等を飾ったり、季節の装飾を行う等、季節感が感じられるように工夫している。食事レクリエーションやおやつレクリエーション、洗濯干しや洗濯たたみ等への参加を支援し生活感を取り入れている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブルの位置を工夫し、安心して過ごせる空間作りをした上で、好きな場所で過ごしていただいている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)		<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみの家具や思い出の品を居室に持って来ていただき、安全に、穏やかに過ごせる配置を工夫している。</p>	<p>各居室に、ベッド・クローゼット・換気扇・エアコン等が設置されている。広いスペースがあり、テーブル・ソファ・冷蔵庫・テレビ等の使い慣れた家具や道具、家族の写真や自身の絵等の馴染みの物の持ち込みを勧め、居心地よく過ごせるよう支援している。利用者の状況に応じて家具の配置を検討したり、わかりやすく表札を付けて部屋間違いを防止する等、安全に自立した生活が継続できるよう対応している。居室担当職員・管理者・計画作成者が中心となり、家族と連携して、衣替えや環境整備を行っている。</p>	
55			<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>生活空間は障害が少なくなるように配慮したり、手すりを設置し、段差のある所は個別にサポートしている。また、ご利用者の状態の変化に応じ、ご利用者に常時危険がないか、スタッフ間で話し合い、気をつけている。</p>		